令和4年度　学校自己評価表　（計画段階・実施段階）

評価基準　　A　達成できた　　B　普通　　C　不十分

鹿島学園高等学校

学校運営計画　（4月）				
学校運営方針				
昨年度の成果と課題	重点項目		重点目標	評価
文武両道を推進するとともに、職員が一丸となって教育活動に取り組み、進路、部活動において実績を残すことができた。 GIGAスクール構想により1,2年生にタブレットが準備された。生徒に探求学習を行わせるにはタブレットは不可欠。探求した経験がAO入試や、面接試験に活かされるよう指導していきたい。 1年生から新学習指導要領が導入される。本校も4年前より準備を進めており、主体的、対話的で深い学びの視点からカリキュラム作成した。また、観点別評価も始まるので、3観点に重きを置いた生徒個々の評価を各教科主任を中心にしっかり行っていく。 地元との連携強化は一層おし進める。地方の私学こそ地元の信頼が大切である。今後とも地域・地元中学校と積極的に関係を保ち連携を強めたい。	学習指導の充実	学びに向かう力、人間性	学んだことを人生や社会に生かそうとする力を身につけさせる。	B
		知識及び技能	実際の社会や生活で生きて働く力を身につけさせる。	A
		思考力、判断力、表現力	未知の状況にも対応できる力を身につけさせる。	B
	進路指導の充実	きめ細やかな進路指導	○生徒一人ひとりの希望に応じた進路を決定する。 ○十分な時間をかけ生徒一人ひとりの適性を判断する。 ○生徒自身の進路に対する意識を高める。	A
		計画的な進路に関する行事	大学見学、体験学習、職場見学など、年間を通して計画をしっかり立てる。	A
	生活指導の徹底	基本的生活習慣の確立と自律心の育成	○高校生として基本的生活習慣を身につけさせる。 ○自ら物事を考え、従い、行動できる力を身につけさせる。	B
		いじめ未然防止活動の充実	毎日の学校生活いおいて他者への理解を深める姿勢を持たせ、コミュニケーション能力を育成し、いじめがいかに非道な行為かを理解させる。生徒一人ひとりの個性を理解し、小さな変化に気づく目を養い、いじめ未然防止に努める。	B
		安全教育の充実	交通安全教育・SNS適正利用教育・薬物乱用防止教育・防災教育を充実させ、身近な生活の中で危険が多いことを理解し、意識を高める。	A
	その他	カリキュラムマネジメント	総合的な探究の時間を充実させるため、各学年と協力し、見通しを持って学ぶためのキャリアパスポートを活用する。	B
			「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取り組みを構想する。	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国　語	基礎学力の向上	辞書を引く習慣を身につけさせる。	C	一人1台PCを持っているにもかかわらず、辞書機能も含めて使いこなせていない。漢字検定の合格率は上がったが、受検者数は減ってしまった。実力テストの成績は思わしくない。他教員の授業見学や外部の研修会参加は思うようにできなかった。双方向の授業を行うことを全員が心がけたが、反応してくれない生徒も多く、いかに生徒たちに主体性を持って取り組ませるかが、大きな課題である。
		辞書などを引き語彙力を向上させる。	C	
		漢字検定の受検者数、合格率を上げる。	B	
		「読む」「話す」「書く」ことを反復させる。	B	
	授業の改善	一方的な授業ではなく、双方向の授業になるように努める。	B	
		定期試験のみならず、実力テストの成績を向上させる。	C	
		共通テストを視野に入れた指導を行う。	B	
		各種研修会への参加、他教員の授業見学を積極的に行う。	C	
地　歴 公　民	基礎学力の向上	基本的な学習習慣を身につけさせる。	B	ICTを活用し、授業の振り返りを実施する。また、生徒にテーマ発表の場を設け、興味関心を育む。授業内容の充実を目指し、補助教材を使用し、予習の定着を目指す。
		基礎・基本の定着を図り、ICTを更に活用し、疑問、不明な箇所を自ら調べさせることにより、内容を理解させる。	B	
		補助教材を使用した予習・復習を促し知識の定着を図る。	C	
	興味・関心を高める授業の工夫	講義だけではなく、ICTを活用し映像資料・新聞記事などの身近な教材等を積極的に活用し、興味・関心を高める。	B	
		興味・関心を抱いたことから、社会のモラルやルールを理解し、実生活での実践力を身につけさせ	C	
	表現力の向上	身近な社会問題を題材として、生徒に意見を発表させ思考力を育てる。	C	
数　学	数学に対しての関心の向上	身近な例を取り入れ、生徒が興味・関心を持てる授業を行う。	C	教科書レベルの内容の定着を図る。ICT機器を活用し、生徒が興味を持てる授業を行う。
		デジタル教科書やスタディサプリを授業展開に取り入れ、生徒のICT活用を促進させる。	B	
	基礎学力の向上	定期的に小テスト等を実施し、基礎学力の向上を図る。	B	
		教科書、問題集やスタディサプリ等から宿題を与え、予習・復習の習慣化を図る。	B	
		理解不足や疑問のある生徒が自主的に復習し、質問等に来られる環境をつくる。	B	
	数学的考察力の強化	既習の内容を用いて様々な発展問題に取り組ませる。	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
外国語	基礎学力の向上	授業進度、発問内容、課題、アクティビティなどがクラスごとの習熟度・技能に合っているか定期的に教科会で共有し、生徒の理解度を測る。	B	スタディサプリを導入して、昨年度よりオンラインツールを使う機会が増えた。次年度も有効活用していきたい。また、個別学習の最適化を意識して評価方法を改善し、一人ひとりに合った指導ができるようにしていきたい。
		授業内で復習テストや単語テストを定期的に実施し、基礎学力の定着を目指す。	A	
	英語力の更なる向上	実用技能英語検定の受検を推奨し、検定合格者を増やすことを目指す。また、検定対策を補習や講習を通じて検定取得のサポートをする。	B	
		ネイティブ講師と協力し、授業内でアウトプットする機会を設け、実用的な英語の習得を目指す。	A	
	家庭学習の習慣化	定期的な小テストを確立し、小テストに向けた自宅学習を促す。	B	
		PCやスマートフォンを用いて、オンライン学習の課題を配信し、家庭学習の定着を目指す。	B	
	授業の工夫と改善	実力テストや英語民間試験の結果を分析し、授業の改善に役立てる。	B	
		定期的に教科会を開き、意見を交換する。また、研修会にも積極的に参加し内容を共有する。	B	
理　科	基礎学力の向上	授業内での小テストや問題演習を通して基礎の定着をはかる。	B	実験や観察など生徒主体となり考え学ぶ機会を増やしていきたい。ICTを活用し、一人ひとりに合った学習ができるよう工夫していきたい。
	自然の事物・現象に主体的にかかわり、科学的に探求しようとする態度を養う	授業内の発問により、生徒の意見を多く発信させる。	A	
		授業において、生徒の興味・関心等に応じて、自然や科学技術に関連した課題を出し考察させる。	B	
		ICT機器を用いたデジタル教科書の活用や演示実験を通して、知的好奇心や探究心を喚起させる。	A	
	問題解決能力の向上	科学的課題にグループで協力し合いながら取り組み、発表させる。	B	
家　庭	学習意欲の向上を図る	生徒が主体的に学習意欲をもって取り組めるような指導方法を日々研究し、授業に取り組む。	A	来年度は実習を取り入れた授業を展開していきたい。生徒が自分自身の人生について考えられるよう、さらに工夫をしていく。
	生活に必要な知識・技術の習得	家庭生活を創造する上で必要な知識や技術を習得させ、生徒自身が実践の中で活用できるような力を育む。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
情　報	情報社会へ参画する態度の育成	情報社会でのリテラシーを理解し、実生活おける実践力を身につけさせる。	A	情報リテラシーについては、時間を割いて伝えることができた。次年度は情報Ⅰになるので、プログラミングについての時間をしっかりと行っていきたい。
		情報社会の中に参画できるために、基礎的な情報に関する能力を身につけるさせる。	A	
	情報技術への知識・理解を深める	コンピュータ実技を通し、基礎的な操作方法を身につけさせる。	B	
保　健 体　育	生涯を通して運動に親しむ資質や、健康の保持増進のための基礎体力の向上	体力テストや健康診断の結果をもとに個々の目標を設定・達成させ、その運動の楽しさや喜びを感じられるようにする。	B	体育授業における、観点別評価での運動実技と座学での学びの時間をバランス良く設定する重要性が感じられた。 年度後半になると、体育備品の劣化・破損が目立つようになったため、こまめに備品の確認を行い、生徒たちの安全管理と備品不足解消などの対策を徹底する。
		生徒一人ひとりの能力・適正、興味・関心、体力や生活に応じて種目を選択し、指導法を工夫する。	A	
	基礎学力の向上と更なる意欲を育む	健康的な生活習慣を身に着けさせるため、ICT機器を積極的に取り組み、生徒同士の対話を実践させる。	B	
	生徒が自主的・意欲的に取り組める環境の整備	グループ活動により、各グループの課題や個人の課題に沿った練習内容を考え実践させる。	A	
		運動に積極的に取り組めるような活気あふれる雰囲気づくりを目指す。	A	
芸　術	授業において芸術の幅広い活動の展開	生徒が一人ひとりの個性を生かして、主体的に授業へ関わっていけるように支援する。	A	今年度より指導要領が変更になり、授業の体制も大きく変更できた。 音楽では、グループワークを多く取り入れた。美術ではICT機器を用いて表現力を深めることができた。 次年度は新指導要領の評価基準を継続していくことで、評価の視点を明確にしていきたい。
		様々な芸術作品から作者の意図を読み取り、作品を深く知る。	A	
		実践的・体験的な諸活動を多く取り入れ、表現力を磨く。	A	
	生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成	幅広い教材を取り上げ、生徒の芸術的な価値意識を一層拡大できるようにする。	A	
		生活を明るく豊かにする創造活動をしていくための基礎となる能力・資質を育てる。	A	
	我が国の伝統や諸外国の芸術・文化についての関心や理解の探求	日本の伝統音楽に触れる。（音楽）	A	
		西洋と日本の作品を比較し、日本伝統美術の独自性を考察する。（美術）	B	
		音楽の分野の歴史やその背景について学ぶ時間をつくる。	A	
		美術作品の美しさや多様性を感じ取れるようにする。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
渉外部	PTA活動の推進	PTA各種行事の開催。同時に、保護者が積極的に参加できるよう内容を充実させる。	B	コロナ禍ではあっが、保護者と教職員間で行事が実現できた。社会情勢の安定を前提に、更なる交流、親睦の場を増やせるよう努力したい。
		県私保連との連携強化。各種研修会への参加。	B	
	広報活動の充実	広報誌の内容を吟味し、正確な情報を発信する。また、内容の充実に努める。	B	
入試広報部	中学校との信頼関係に基づく入試体制の確立	中学校の教員と連絡を密にとり、そこで得た情報を基に入試制度を改革する。	B	今年度は定員を充足できたが、少子化のおり全く楽観視はできない。人数が確保できているうちに入試制度や広報活動に変化をつけて前進しているところを地域の方々に印象付けたい。
		中学校に対して丁寧な入試業務を行う。	A	
	中長期的展望に立脚した入学者数の確保	定期的に中学校・学習塾を訪問し、本校教育活動の広報に努める。	A	
		各コースの教育活動を充実させ、生徒のレベルアップをはかる。	B	
	広報活動の充実	ホームページ・パンフレット・ポスターを魅力的なものにする。	B	
		学校見学会・入試説明会など様々な広報活動を通して、本校の魅力を十分に伝える。	B	
生徒指導部	特別活動の充実	HR活動、生徒会活動、ボランティア活動などを通して心身の成長を促す。	B	全体を通して言えることは可もなく不可もなくの一年だった。生徒が今後の社会を生き抜くために必要な知識や行動力を身に付けられるような取り組みが必要だと思う。
	学校生活を通した人格形成	学校生活を通して、心身ともに健全な人間を育てる。	B	
		学校生活を通して、他者への理解と自己肯定感を持ち、他者への理解を深める。	B	
		学校生活を通して、協調性を育み、社会に出て通用するコミュニケーション能力を育てる。	B	
	いじめ未然防止活動	日常のコミュニケーション、面談、アンケート等を徹底して行い、いじめ未然防止に努める。	B	
寮生部	安全管理	第一寮、第二寮別々で避難訓練を学期に1回は必ず行う。	A	今年度は4月にコロナ感染が寮内で広がり大変ご心配をお掛けいたしました。また12月から1月にかけてはインフルエンザも流行してしまった。寮内での感染症予防の徹底をしっかりしていきたい。
		コロナ禍の中、マスク着用や部屋の換気、入浴記入表など徹底する。	B	
	基本的生活習慣の確立	起床時間や消灯時間を徹底させるとともに、体調・体温の確認を朝と夜の二回行う。	B	
		規律ある共同生活を行うことにより、将来にわたる人間形成に資する教育を行う。	B	
		日勤舎監とも連携を密にしながら、清掃状況などのチェックをしっかり行う。	B	
	学習習慣の定着	自主的に学習するよう生徒に目標をもたせ、学習時間を徹底させる。	B	
強化部	心身の健全な発達	運動の楽しさを感じながら、各種専門的な技術を高める。	B	生徒募集に関しては、各部全体的に例年以上に生徒確保ができた。
		他の生徒の模範となる言動を心掛けさせる。	B	
	広報活動の充実	次年度に向けても優秀な生徒（選手）を一人でも多く獲得できるように募集活動を積極的に行う。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
保健環境部	学習環境の整備	黒板・掲示物・窓枠・網戸・清掃用具入れの点検・整備をする。	A	周辺地域との関わり（清掃や防災）に取り組んでいきたい。また、校内の環境美化に努めていきたい。
		机・椅子・教卓・黒板消しクリーナー・電子黒板の保全・点検をする。	A	
	環境美化意識の充実	環境美化委員会を動員して、校内の美化に努める。	A	
		資源ごみ・可燃ごみなど分類の徹底を図る。周辺地域の清掃にも取り組む。	B	
	防災・避難訓練の充実	防災総合避難訓練・緊急地震速報による訓練などを実施する。	A	
		地域の関係機関と連絡を取り合うなど、防災への取り組みを充実させる。	B	
	心身の健康管理能力の育成	定期健康診断や保健教育を計画的に実施する。	A	
		心身の健康問題に対して早期に対応し、自ら健康的な生活を送ろうとする態度を育てる。	A	
	健康・安全教育の充実	保健だよりや掲示物で保健・安全に関する情報発信を積極的に行う。	B	
		感染症予防のための指導と環境整備をする。	A	
教務部	主体的で深い学びに向けた授業改善	育成したい力を明確にし、その力を育成するための具体的な手立てを明らかにした研究授業を実施する。	B	一人1台PCの活用は定着しつつある。主体的・対話的で深い学びの実現に向けての授業改善を進めていきたい。
		授業内容の向上のため、適切な時期に授業アンケートを実施をする。	C	
	進路実現のための学力向上	本校の現状にあった教育課程を弾力的に検討・編成する。	B	
		教務規定の見直しを引き続き行う。	B	
	在籍管理と転編入学の円滑な実施	在籍管理を徹底するとともに、転編入学の手続きについて、円滑に進める。	A	
事務室	緊急時の対策	緊急発令があった場合を想定し、生徒・教職員の安全確保に備える。	B	更に一人ひとりが自覚を持って、スムーズに事務処理が出来るよう進めていきたい。また、他の職員を含め、より良い共有ができる環境づくりを心掛けたい。
		定期的に校舎、学生寮等の施設点検を行う。地震、火災、落雷、水害等後は、しっかり確認を行い共有する。	B	
	個人情報の管理	郵便物、提出資料の受付をしっかり記録管理する。親展、速達等の特別な物については、手渡し・伝達をしっかりと行う。	B	
		生徒、教職員の個人情報管理をしっかりと行う。常にPC、机上等の管理を心掛ける。	A	
	電話・窓口対応の心遣い	相手が見えない電話での対応には丁寧な言葉対応を心がけ、相手に不愉快な思いをさせない。	A	
		言動には注意し、明るく丁寧な対応をする。また、ウィルス感染拡大防止対策をする。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国際部	安心・安全な留学生活	留学生への新型コロナウイルス感染拡大予防対策の周知と理解を徹底する。	B	オーストラリア受入・英語交流・花生け・ボランティア・小学校との文化交流・スピーチコンテス・アクティヴィティト等、地域に関わりながら留学生のアイデンティティを発揮できた1年となった。規範意識や自立した生活習慣の教育サポートと定着に一層努める。
		共同生活を送る上で、基本的生活習慣の確立や他者への配慮を養う教育やサポートを行う。	C	
		国の体制や価値観の異なる保護者へ、日本国内の状況や対策につて丁寧な案内と対応を心掛ける。	A	
	留学・留学生を通じた多様性への理解	留学生は日本での留学生活を通し、その文化や価値観を体得し、尊重する心を養う。	B	
		職員は留学生を通し、グローバルな視点を養い、その多様性を受け入れる土壌を創る。	B	
		言語や文化など相互交流を通し、互いの文化や価値観を知り、それを尊重する心を育む。	A	
	留学生の能力・魅力を発揮する	内部・外部問わず、コロナ禍においても参加できるイベント等を積極的に案内し、個々の興味関心のある分野で能力を発揮できるようサポートする。	A	
	自律した留学生活	学習や学校生活を通し、自己解決能力を育む。職員は留学生が課題を解決する道筋や方向を示す。	B	
		卒業後の留学生活を見すえ、自律した生活習慣が身に付けられるよう導く。	B	
		留学生自治会主導による規律と活気ある留学生活が送れるようにする。	C	
進路指導部	生徒の主体的な進路選択の支援	進路ガイダンスや学年集会などを通し、進路への意識の向上をはかり、希望進路実現のために何が必要かを考えさせる。	B	状況に応じて、オンラインと対面を組み合わせながら、進路行事を実施し、生徒の進路選択・実現の機会とすることができた。より生徒が興味を持てるよう内容を高めたい。
		多様な進路希望に対応できるよう、資料やPC環境を充実させ、利活用を促進する。また、個人の携帯電話などを活用した進路学習の指導を充実させる。	A	
		生徒面談や三者面談によって、生徒一人ひとりの希望・適性に応じた進路相談を行なう。	A	
		総合的な学習や進路行事を通じて、3年間を見通した進路指導を行なう。	B	
	生徒の希望進路実現のための支援	生徒の希望進路実現のために、教員一人ひとりが授業の質を向上させるとともに、各教科で授業研修を行い全体としての指導力向上に努める。	B	講習会や放課後のゼミなどは生徒の学びの機会を増やすことができた。さらなる授業力の向上と、動画学習の効率化を図りたい。
		実力テストや模擬試験の結果を分析し、進路指導部・学年・教科で共有し効果的な指導を行う。	B	
		夏期講習・冬期講習・春期講習・放課後のゼミを実施するとともに、Classiの活用によって、成績上位層だけではなく、留学生も含めた全体の学力向上の支援を行う。	A	
		オンライン学習の機会を拡充し、幅広く学べるように支援する。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
学校図書館	利用者数・貸出数の増加	地域の図書館と連携し、団体貸出などを利用することで、生徒により多くの読書の機会を与える。	B	授業での利用について、教科の偏りが見られた。ICTによると補完し合いながら情報センターとしての役割を担い得る環境づくりに努めていきたい。
		様々な授業で図書館を活用してもらうことで、図書館に対する認知度を上げ、利用者拡大につなげる。	B	
		生徒や教員に希望図書などのアンケートを実施し、ニーズに合った図書館づくりに取り組む。	C	
		図書館内の掲示物や配置などを工夫し、利用しやすい環境づくりに取り組む。	B	
	本に親しむ環境づくり	図書委員会の活動の場を増やし、生徒に図書委員としての自覚を持たせるとともに図書委員会の活性化を図る。	C	
		学習・読書の情報センターとしての図書館だけではなく、生徒にとって居場所の1つとなる環境づくりに取り組む。	B	
1学年	礼節を備えた人格の形成	授業やHR活動、各行事を通じて、相手を尊重し敬うことができる生徒を育てる。	B	学校生活を通じて、向上心の高い生徒の育成に努めていきたい。
	主体的に行動する意欲の向上	一人1台PCを活かした探究活動により、何事にも興味を持ち、成長意欲が高い生徒を育てる。	C	
	学習習慣の確立と学力向上	各生徒に合わせた目標設定を行うことで、やる気を引き出し、学力向上を目指す生徒を育てる。	C	
2学年	協調性・相互理解の向上	クラス生活や行事を通じて、他者理解を深め、協調性を育む。	A	学年内での連携以外にも、他部署と連携した活動を行うことができた。ICT活用については、アプリの導入で留まっているように感じる。次年度は発展した利用方法を検討し、進路活動などに活かしていきたい。
	主体的に学ぶ意欲・態度の育成	ICT教育等を活用し、自ら学習に取り組める環境や課題作りを行う。	C	
	目標を明確化する進路指導	自分の目標をより明確化できるよう、進路活動の充実化を図る。	B	
3学年	基本的生活習慣の確立	学年集会やLHR、総合的な探究の時間を通して、他者と協働して学ぶ力や人間としての在り方を身に着ける。また、多様性が求められる中で自己理解・他者理解の充実を図る。	B	学年全体が協力し生徒の進路実現のために尽力することができた。また、各クラスが総合的な探究の時間などを通して受験形式の説明や進路指導をしっかり行ってくれた。次年度もLHRや探求を有効活用し生徒のためにできることを模索し実行していく。
	豊かな人格形成	学校生活や部活動を通して「生きる力」や「学びに向かう力」を身に付け、主体性と豊かな人格を育む。	B	
	将来を見すえた学習指導	受験方法が多様化する中で、受験方法に応じた学力の構築、小論文の指導を徹底する。	A	